

ごみは1年間でどれくらい出ているの？

小郡市のごみ排出量は、家庭系ごみと事業系ごみを合わせて、年間で17,638t(令和4年度)です。処理費用は約8億円にもなり、多額の費用がかかっていますが、一人ひとりの少しの努力や協力でごみの減量・処理費用の削減が可能です。

市民全体で取り組む「ごみ減量大作戦」。まずは家庭で簡単にできる減量策から実行しましょう。

令和4年度 家庭系ごみ排出量

可燃ごみ	9,785t
不燃ごみ・粗大ごみ	1,687t
資源ごみ	2,231t
合計	13,703t

市のごみの
約**78%**が
家庭から
出たもの！

大ごみ減量 大作戦



みんなで始めよう！

生活環境課リサイクル推進係
☎72-2111

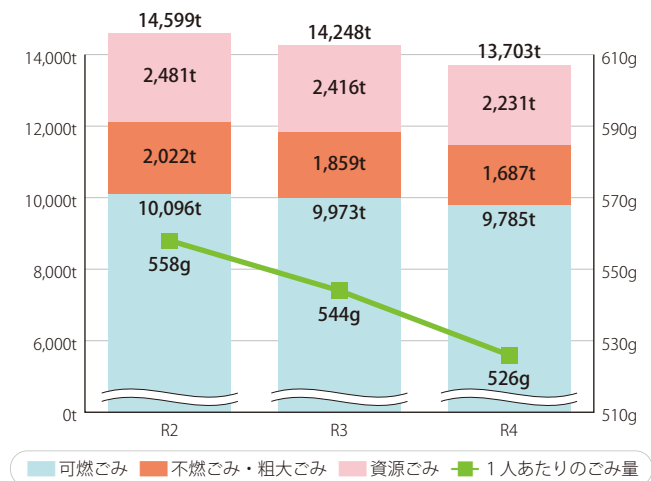
ごみは増えている？減っている？

令和4年度の家系ごみの排出量は、令和3年度に比べ、可燃ごみがマイナス188t、不燃ごみ・粗大ごみがマイナス172t、資源ごみがマイナス185tで、合計545t減少しています。また、資源ごみを除いた1人1日あたりのごみ排出量も、544gから526gへと減少しています。

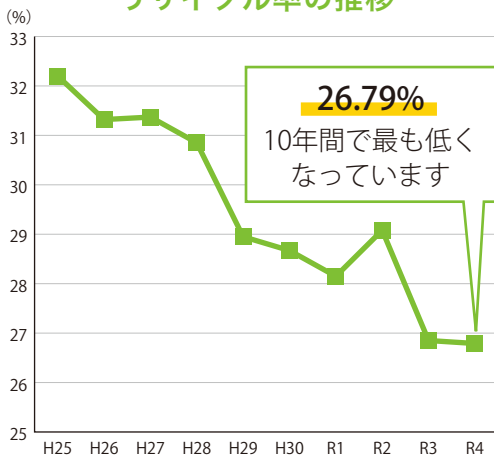
令和2年度は、感染症による外出自粛の影響で、排出量が大きく増加しましたが、令和3年度以降は減少傾向にあります。

小郡市民1人あたりのごみ排出量は
1日526g、年間192kgです。1日500gを
切れるように、ごみを減らしましょう！

種類別排出量と1人1日あたりの排出量(家庭系ごみ)



リサイクル率の推移



ごみは減っているけど
リサイクル率も低下

リサイクル率とは、1年間のごみの総量に対し、リサイクルした資源ごみの割合のことです。

市のリサイクル率は県内でも上位に入ります。これは、市民の皆さんの日々の努力が積み重なった結果です。その一方で、市単独のリサイクル率の推移を見ると、年々低下傾向にあります。

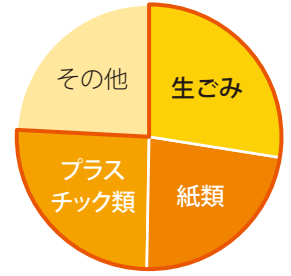
リサイクル率が低下している原因の一つは、燃えるごみ袋や不燃物袋に資源ごみが混入していることです。

リサイクルできるものは正しく分別し、資源ごみとして出すことで、リサイクル率を上げさせましょう。

ごみを減らすにはどうしたらいいの？

市は、3年に1度、ごみの中身の調査を行っています。

令和2年に実施した家庭から出る可燃ごみの結果を見てみると「生ごみ」「プラスチック類」「紙類」がほとんどを占めています。この3つは少し意識するだけで減量可能です。次の3つのミッションに挑戦して、ごみを減らしましょう。

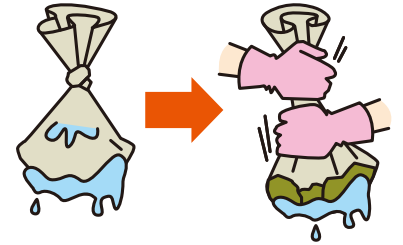


ミッション1

生ごみの水を切ろう

生ごみはその70~80%が水分と言われており、ごみ袋に入れる前に生ごみの水を切ることで、ごみの量を大きく減らすことができます。

例えば、1世帯あたり卵1個分(約50g)の水切りに取り組むと、年間で450tのごみ減量になります。



ミッション2

ごみと資源を正しく分別しよう

市は、ごみを15種類に分類し、そのうち11種類を資源ごみとしてリサイクル(再資源化)しています。リサイクルできるものをごみとして出さず、正しく分別して資源物として循環させましょう。分別の仕方は市公式LINEのメニュー「ごみ」、市ホームページで確認できます。



資源ごみの種類

- ・アルミ缶
- ・スチール缶
- ・トレー
- ・ペットボトル
- ・新聞紙、チラシ
- ・雑紙
- ・段ボール
- ・紙パック
- ・古布
- ・剪定枝
- ・乾電池

ミッション3

使い捨て商品の使用を減らそう

ペットボトルや割りばし、買い物袋、プラスチック製品など、日常生活には使い捨て商品があふれています。使い捨て商品は一度使用しただけでごみとなり、ごみを増やす大きな要因の一つです。

エコバッグやマイボトル、マイ箸など、繰り返し使用できる商品を進んで活用しましょう。



捨てられたプラスチックが海に流れて海洋汚染に…

ごみを燃やすときに発生する二酸化炭素は地球温暖化に…



ごみを減らして地球を守る

私たちが生活をしていく中で、ごみは必ず発生するものです。そして、私たちが繰り返している「捨てること」が地球環境問題につながっています。例えば、ごみを焼却する際に発生する二酸化炭素が原因の地球温暖化、リサイクルできるものをごみとして捨てるのが原因の天然資源の枯渇及び海洋汚染・環境汚染などがあります。

ごみの問題を解決し、ずっと住み続けられる地球を守るために、なるべくごみを出さない、資源ごみをきちんと分別して出すなど「ごみの減量化・資源化」に積極的に取り組んでいきましょう。